

| | |
|-------|-------|
| 指導教員名 | 辻本乃理子 |
|-------|-------|

| | | | |
|------|--------|-----|----|
| 活動区分 | 地域活性化型 | 連携先 | 個人 |
| | | | |
| | | | |

～ 家島活性化プロジェクト(3年生) ～

活動の様子



家島視察(2023.9)



家島視察(2023.9)

企画・活動概要

辻本ゼミでは、快適に生活することに関して住宅内の環境だけでなく街の環境についても分析・考察し、社会共創活動への積極的な参加を促している。家島の人口減少や空き家の増加など地域の課題を実体験し、課題解決のための一助となる活動を実施する。

経緯・背景・目的

いえしまコンシェルジュ中西氏より本学に依頼があった。姫路市家島本島には約2,200人が居住している。家島は坂や階段が多いことから高齢者にとって住みづらく、また島の産業である採石業や海運業の需要減少と就業機会や教育機会の乏しさから島外への流出に伴う著しい人口減少が生じた。島をいかに存続させるか、人口減少と空き家の増加への対策が必須となっている。



家島の風景

取り組む課題

家島の地域活性化につながる魅力発見と課題解決にむけた提案と活動に取り組む。

本学(学生)の役割

地域が抱える課題を理解し、実現可能な地域活性化の提案を検討することである。現地フィールドワークにて、家島の風土と資源についていえしま案内人の中西氏に説明いただいた後、学生は現地フィールドワークを実施し家島の状況把握を行った。学生は家島の現状と課題を分析し、家島の地域活性化案を提案し、活動を実施する。



家島でのミーティング

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

現地を視察したことで、ごみ箱や案内表示の不足などの課題を発見した。また、島の美しい風景や島民のフレンドリーな対応など地域の魅力を発見した。現地の現状と課題を体験により発見し、自ら考え課題解決にむけた実践的な活動を提案、実践に向けての計画立案の重要性を身につけた。また、活動実施にむけての外部との連携、連絡等のやりとりの重要性を学んだ。



指導教員および関係者の紹介

＜指導教員＞



人間社会学部
人間社会学科
准教授
辻本乃理子(ツジモトノリコ)
＜専門・担当科目等＞
地域居住学、生活環境学、都市計画

＜関係者・企業等＞

いえしまコンシェルジュ合同会社
中西和也氏(ナカニシカズヤ)